



## 大阪医科薬科大学薬学部衛生化学研究室

奥平 桂一郎

大阪医科薬科大学薬学部衛生化学研究室を主宰しております奥平桂一郎と申します。この度は我々の研究室について紹介する機会を頂き、感謝申し上げます。私は1999年に京都大学薬学部を卒業、同大学院薬学研究科の製剤機能解析学研究室にて研究を開始し、博士後期課程で名古屋市立大学医学部にて研究指導を受けました。その後、米国への留学を経て、当時東京用賀にあった国立医薬品食品衛生研究所に研究員として採用されました。2014年に徳島大学に准教授として着任し、2020年に現職に異動して地元大阪に戻って参りました。前任は、環境分子生理学研究室として藤本陽子先生が主宰しておられましたが、私の着任と同時に衛生化学研究室と名称を変更して4年が経過します。

研究室のある阿武山キャンパスは、薬用植物園を有する緑豊かなキャンパスです。薬用植物園には800種以上の薬用植物があり、実物体験型の自然博物館として公開しております。キャンパスは大阪・京都のベッドタウンである高槻市の北部、閑静な住宅地にあります。丘陵地にある大学からは、北には美しい北摂山地の峰々、南には高槻市街が一望できます。近隣には藤原氏有力豪族の墓と言われる阿武山古墳や、相撲や将棋で賑わう摂津峡などがあり、歴史と文化に溢れ、学舎として極めて恵まれた環境にあります(写真1)。

2021年4月には、旧大阪薬科大学は旧大阪医科大学と統合し、医療系総合大学である大阪医科薬科大学として生まれ変わりました(法人としては高槻中学校・高等学校とと

もに2016年に統合)。旧大阪薬科大学は117年、旧大阪医科大学は95年の歴史があります。伝統の融合と実践的な連携をベースに、更なる教育の充実と研究の進展、地域社会への貢献が可能になると期待しております。

現在我々の研究室では、生理活性物質・環境化学物質がヒトの健康や環境に及ぼす影響とそのメカニズムに関する研究を進めております。スタッフは教授、准教授、講師の3名で、学生は大学院生2名、4年生から6年生までの学部生が39名在籍しています(写真2)。大所帯のため指導という点では苦慮することもあります。若くて元気な学生たちから背中を押され勇気づけられることもあります。ともに試行錯誤を繰り返し、一喜一憂しながら日々楽しく研究に取り組んでおります。

私は主に動脈硬化やコレステロールなどの脂質をテーマに研究を行っております。特に血液中で「善玉」と呼ばれるHDL(高密度リポタンパク質)の生理機能の解明と治療への応用を目指しています。佐久間准教授は機能性食品が肥満等に及ぼす影響について、東講師は河川の水質に関する研究に従事しております。ポスドク等の研究参加は大歓迎ですので、研究に興味をお持ちの方はお気軽にご連絡ください(研究室HP：<https://www.ompu.ac.jp/class/pharm/hgn.html>)。今後も教育・研究に精進していく所存です。ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



写真1 薬学部からの景色



写真2 研究室メンバー